



室谷 涼平

グループホーム向が丘
小規模多機能型居宅介護ひらばり
五代目施設長

ほほえみ選手名鑑

室谷さんってどんな人？

利用者さんとスタッフ、双方にとって
よい施設づくりをしてくれます。

利用者さんにとってのよいケアを考えるだけでなく、
スタッフの考えた支援に理解を示してくれるなど、
働きやすい環境をつくってくれます。

ほほえみスタッフや
地域の方が語る
室谷さんのホント。



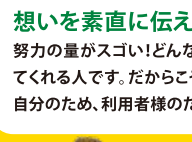
スタッフ：岩瀬 裕哉



スタッフ：阪野 涼子

愛情たっぷりの人です。

利用者さんへきめ細やかな気遣いをする人です。
スタッフに対しても、ひとり一人の悩みを聞いたり、
時間をつくってひとつずつ丁寧に教えてくれたりします。



ボランティア：神谷さん



スタッフ：加藤 貴大

ボランティア：神谷さん

想いを素直に伝えてくれる人。

努力の量がすごい！どんなに忙しくても相談にの
ってくれる人です。だからこそ、僕も期待に応えたい！
自分のため、利用者様のために努力できます！

優しさ溢れるお兄さん♪

いつも喫茶に来ると優しく接してくれます。
優しい室谷さんの顔を見るとなんだかホッとした
気持ちになれるよ。



ほほえみ

グループホーム向が丘
小規模多機能型居宅介護ひらばり



『あなたとともに』を理念として、利用者さま・
スタッフ・ご家族・地域の方々が互いを支え
あうことで良好なサービス、今までできなかった
介護サービスを提供。地域社会に大きく貢献
する施設運営を目指しています。

〒468-0012
名古屋市天白区向ヶ丘4丁目1002番地
TEL 052-433-6111
<http://hohoemi33.co.jp>

グループホーム向が丘
公式インスタをフォロー！
[hohoemi_mukaigaoka](https://www.instagram.com/hohoemi_mukaigaoka)



室谷 涼平 (むろたに りょうへい)

天白区平針出身

ニックネーム：むろくん・むろさん・むろちゃん

特技：ランニング・麻雀・バスケットボール

趣味：サウナ

好きな言葉：努力は実る！

尊敬する人：自分の妻です！

好きな食べ物：ハンバーグ・メロンパン

個人的な目標：
30代までにダンベルを30kgずつあげること

影響を受けたモノやコト：ハワイへの海外旅行

ブログやってます！

ブログタイトル：「室谷の涼しくて平和な日常ブログ」
<http://blog.livedoor.jp/murotani33333/>

プライベートの私

私のプライベートを
ちょっとだけ
ご紹介します。

週1回のジム



週に1回、休みの日にはジムに通って
います！身体を動かすことでリフレッシュ
でき、心も身体も癒されています。また身体
を鍛えてからのサウナは格別で、ここ半
年間ほどは継続して通っています。その
おかげで10kgの減量に成功！身も心も
すっきりとした気分、仕事もプライ
ベートも充実させております！

家族旅行



室谷家では1年に1回以上は、県外への
旅行に行くことが定例行事になってい
ます。コロナ渦の際は、なかなか外出する
ことができませんでしたが、以前はハワイ、
USJ、京都などに行きました。山・川・海、
そのときの気分で妻と子供と旅行に行く
ことが楽しみです！

室谷の強さの秘密

「室谷の強さの秘密」：室谷



せくなったおばあちゃんが、 介護士としての原点を教えてくれた。

介護のことをほとんど何も知らないまま、この世界に飛び込んだ室谷涼平。新人の頃に経験した、利用者さんであるおばあちゃんの死。ほほえみに入社した後の、さまざまな学びと実践のサイクル。そうした経験から室谷がどのように、介護士として大切なこと、責任者として大切なことを学んでいったかを紹介します。

室谷涼平 自筆年表

原点

大学のゼミの先生に勧められ、介護の道へ進んだ室谷。最初の勤め先で、グループホームのスタッフとして働き出して間もない頃、利用者さんであるおばあちゃんが亡くなります。当時介護士としてのモットーなどもなく、ただ時間に追われ、流れ作業のようにお世話していただけに、自分でも驚くほど泣けてきたと室谷。おばあちゃんが亡くなる直前にお風呂介助をしたのが自分だったこともあり、「もつと何かできたのでは」という思いから溢れ出た涙だったのかもしれないと当時を振り返ります。そのときの施設長からの「これからこの仕事をしていく上で、いきつけになったね」という言葉も、「室谷くんの素直にひたむきにがんばるところ、謙虚な姿勢で向き合うところを、今後も大切にしていって欲しい」という言葉も、まるでおばあちゃんから言われたような気がしたと言います。おばあちゃんに、自分が介護士として歩んでいく原点を教えてもらったと感じています。

ほほえみ入社

結婚を機に、室谷は勤務地が遠方だったこともあり転職を考えるようになります。いくつかの企業から誘われますが、平針が実家だった室谷は、自分の地元で地域密着で介護を行っているとどこに強く惹かれ、ほほえみへの入社を決めます。入社して感じたことは、学びの場が多いこと。さまざまな研修を通じて学び、実践し、それを評価してもらえるというサイクルがあり、それが仕事をおもしろくし、やりがいにもなっていると感じています。また、社内がひとつのチームとして仲間意識を持ち、分らないことを聞いたり相談できる風土があり、それがほほえみの施設のアットホームさにもつながっていると考えています。

ほほえみ感動エピソード

介護をする上で、室谷が大切にしているのは『想い合い』です。相手が大切にしている想いを自分も大切にします。そうすれば相手も自分を受け入れてくれる。そんな室谷の考える『想い合い』介護が実現したエピソードを紹介します。

ある利用者さんのご家族とのカンファレンスで、室谷は「もう一度いっしょにお墓参りに行けたら」という話を聞きます。利用者さんは、当時102歳のおばあちゃん。日頃からケアには十分な配慮が必要でした。またそれは体調が崩れやすい寒い時期のことでした。けれども、おばあちゃんやご家族の想いをなんとか叶えたいと、室谷はご家族と打合せを何度も重ねたり、フロアスタッフはおばあちゃんの体調をきめ細かくケアしたりと、態勢を整えて当日を迎えました。馴染みのあるお寺に着くとおばあちゃんは、懐かしさからか目を潤ませて迎いを見回したり、昔よくご家族といっしょに飲んだというお抹茶を飲んで嬉しそうに涙を浮かべて喜んでいただけそうです。しよに來ることができると夢みたいですよ」と目に涙を浮かべて喜んでいただけそうです。

今後

喫茶コーナーがあることもあり、地域の人の出入りが多いのがこの施設の特長だと室谷。ボランティアの人と協力してレクリエーションをやったり、近所のスーパーに利用者さんと買い物に行くと「ああ、グループホームのおばあちゃん」と言って声を掛けられたり。今後も、地域密着を常に意識し、ボランティアの方や近所に住むご家族の力を借りながら、より質の高い生活支援を行う、それがこの施設ならではのあり方だと室谷は考えています。コロナ禍では、ボランティアの方との協働が難しい面があったものの、なんとかwithコロナとしての、新しいやり方を構築していきたい、そう考えています。

1989年(0歳)
三重県尾鷲市で生まれた後、愛知県安城市に引っ越す。小学校までは安城市で過ごす。

2001年(12歳)
中学入学時と同時に、天白区平針に引越し。バスケットボール部に入り、充実した中学時代を送る。

2004年(16歳)
高校進学。大好きなバスケットボールに青春を捧げ、今でも時折集まる熱い仲間と出会う。

2008年(18歳)
大学進学。牛丼チェーン店のバイトに明け暮れる日々。

2012年(22歳)
社会人1年目。介護を通じて「謙虚さ」を学ぶ。



バスケットボール部



0歳頃の自分

2016年(26歳)
かねてから付き合っていた今の妻と結婚。常に明るく接してくれる妻には感謝。

2017年(27歳)
第1子となる娘が誕生。育児は積極的に行い、今では友人の子育て相談に乗ることも。



結婚式

2017年(27歳)
ほほえみに出会い入社。地域を巻き込んだ介護や仲間想いの熱い部分に惹かれ、ほほえみのメンバーになる。



利用者様と一緒に

2019年(29歳)
家族でハワイ旅行。最高の海で海水浴を楽しむも、携帯電話が水没。その後は写真が撮れない羽目に。



家族でハワイ旅行

2020年(30歳)
ほほえみ向が丘の施設長就任。妻に「痩せて」と泣きながら訴えられ、ジム通いを始める。



向が丘の皆さんと

答え：「相手を理解し、受け入れ合う」こと

まず、自分自身が謙虚になり、真向きに人と接する。相手の価値観や想いを理解して、大切にすれば、相手も私を受け入れてくれる。想い合う関係を築いて、利用者様やご家族、ボランティアさんが、自然に集まり、憩う場所をこれからも創りつづけます。